

評価仕様（案）

<評価の目的>

令和6年度「建築技術者・技能者のIT活用力アップデートのためのリカレント教育推進事業」の実施状況及び効果を評価し、改善点を抽出することを目的とします。

<評価基準と指標>

1. 教材開発の進捗と品質
 - ・ 開発スケジュールの遵守度
 - ・ 教材内容の充実度
 - ・ 教材の利用者満足度（アンケート調査）
 - ・ 確認テスト及び終了テストの結果
2. 実証講座の実施と効果
 - ・ 受講者数及び受講率
 - ・ 受講者のITスキル向上度
 - ・ 受講者のフィードバック（アンケート調査）
 - ・ LMSを用いた受講管理の適切性
3. 調査の進捗と有用性
 - ・ 調査スケジュールの遵守度
 - ・ 調査結果の有用性と具体性
 - ・ 調査内容の情報共有度
4. 事業全体の運営と管理
 - ・ 会議の開催状況と参加率
 - ・ 各分科会の協力体制と情報共有度
 - ・ 予算管理の適切性

<評価方法>

1. ドキュメントレビュー
 - ・ 開発スケジュール、教材内容、調査報告書、会議記録などを確認し、進捗と品質を評価。
2. アンケート調査
 - ・ 教材利用者および受講者に対して、満足度とフィードバックを収集し、効果を評価。
3. テスト結果の分析

- ・ 確認テスト及び終了テストの結果を集計し、IT スキルの向上度を評価。

4. インタビュー

- ・ 各分科会のメンバー、ファシリテータ、受講者代表などに対して、インタビューを実施し、詳細なフィードバックを収集。

<スケジュール>

1. 8月～9月

- ・ 初期評価の実施：開発進捗、会議の開催状況、初期の受講者フィードバックなどを評価。

2. 10月～12月

- ・ 中間評価の実施：教材の利用状況、受講者のフィードバック、テスト結果の分析などを評価。

3. 1月～3月

- ・ 最終評価の実施：全体的な事業の進捗、成果、各分科会の活動状況などを総合的に評価。

<報告書>

1. 中間報告書

- ・ 提出期限：12月末
- ・ 内容：初期評価と中間評価の結果、改善点の提言

2. 最終報告書

- ・ 提出期限：2月末
- ・ 内容：最終評価の結果、全体的な事業の総括、来年度に向けた提言

<期待される成果>

1. 教育の質の向上

- ・ 教材の改良点を明確にし、次年度に向けた具体的な改善策を提言。

2. 事業運営の効率化

- ・ 会議や調査の運営方法における改善点を抽出し、効率化を図るための提言を行う。

3. 継続的な IT スキル向上

- ・ 受講者の IT スキルの向上を継続的に支援するための教育プログラムの方向性を明確にする。

この評価仕様に基づき、評価分科会での活動を進めていただければと思います。